

横浜市学力・学習状況調査

個人結果シートの見方と活用のしかた

- 調査結果から、教科ごとの学習に関するアドバイスや、必要な力が身に付いているかが、1枚にまとめられています。
- アドバイスを参考に、今後の学習の中で自分の学び方を見直しなが、さらに力が身に付くようにしていきましょう。

【小学校第5学年の例】

学校名、学年、組

個人番号

国語と算数(中学校では数学)は、令和4年度と令和5年度の「学力レベル」が赤の太線で表示されます。  
 ※令和4年度の調査を受けていないか、令和4年度から個人番号が変わっている場合、令和4年度からの学力の伸びは記載されていません。

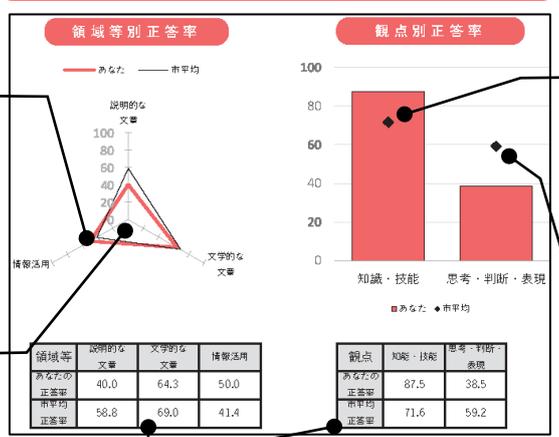
「学力レベル」の変化の状況や学習の理解や習熟の状況に応じたコメント、今後の学習に関するアドバイスなどについて文章で記載されています。

調査を行った教科の領域等別正答率と観点別正答率を、表とグラフで表しています。  
 参考として、横浜市の平均正答率も示していますが、横浜市の平均正答率と比べることよりも、自分の力を知って、これからの学習の中で意識して、その力をのばしていくことが大切です。

※正答率…問題全体に対して、どのくらい正答できたかを示す割合のこと。全ての問題に正答した場合を100%とする。

「領域等別正答率」と「観点別正答率」の部分

領域等ごとの正答率を図形で表しています。色付きの線が、あなたの結果です。  
 点が外側にあるほど、力がよく身に付いています。  
 ※小学校2年生の国語は、右側の観点別正答率と同様、棒グラフで表されています。



二つの観点「知識・技能」と「思考・判断・表現」の正答率を棒グラフで表しています。  
 グラフが高いほど、力がよく身に付いています。

参考として、◆で、横浜市の平均正答率を重ねて示しています。

領域等別正答率や観点別正答率を数値で示した表です。上の段があなたの結果、下の段が横浜市の平均です。